

検討の背景と必要性

- 岩手、宮城、福島三県の海岸堤防等がある海岸約300kmの約190kmが全半壊。
- 河口部においても河川堤防や構造物が甚大な被災。
- 復旧にあたっては海岸堤防と河口部堤防が一連で効果を発現する整備を実施。
- 地域復興を勘案し、短期間（3～5年）で整備完了を目指す。
- 長大な海岸線や河口部を短期間で整備するため「景観」「環境」「利用」への影響や配慮不足が懸念される。
- 整備にあたっては「被災施設の復旧」はもとより「景観」「環境」「利用」の観点についても基本的な方針を定めて実施する必要がある。

〈山元海岸〉



〈岩沼海岸〉



河口部・海岸施設復旧における環境等への取り組み方針

復旧で懸念される事項

- 全区間が短期間かつ同時施工となるため、整備に伴う変化や影響を見ながら対応することが困難
- 地域固有の環境特性の見落とし（被災前の自然環境など）
- 背後・周辺空間との一体感や調和の欠如
- 海岸利用への配慮不足

復旧に先立ち懸念される事項の対応策を検討



基本的な方針（検討項目）

- 「景観」：地域の特性に配慮した景観の再生・創出（被災前の景観再生・復興計画との整合）
- 「環境」：生物の生息・生育環境再生への配慮（被災前の干潟の再生等）
- 「利用」：利用目的や利用者に配慮した機能の確保（背後施設と海岸の連続性確保等）

河口部・海岸施設復旧における環境等への取り組み方針

検討にあたって把握すべき事項（環境の視点）

- 被災前の地域特性
 - 被災前の自然環境・土地利用や地域活動などの社会的環境の把握
- 被災後の地域特性
 - 被災後の地形状況、自然環境の変化、土地利用状況の把握
 - ※自然環境については今後調査を予定
- 地域の復旧復興
 - 復興計画に基づく整備や土地利用計画の把握
 - ※各市町村が現在検討中

検討の対象とする段階

- 計画、設計段階
 - 復旧構造の計画設計に関する配慮事項
 - ※施設復旧の基本構造を基に検討（機能・サステナビリティ・コスト）
- 工事施工段階
 - 工事の施工を行う上で配慮すべき事項
 - ※周辺環境への影響軽減対策等の検討
- 管理（完成後）段階
 - 目標とする機能維持を図るための配慮事項
 - ※モニタリング・維持管理

河口部・海岸施設復旧における環境等への取り組み方針

検討の体制

河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き
「河川海岸構造物の復旧における景観検討会」

- ・復旧における景観への配慮事項の検討
- ・現場への適用イメージの提案

景観への配慮事項

宮城県沿岸域の施設復旧における
環境等への基本的な配慮方針
「宮城県沿岸域河口部・海岸施設復旧における環境等検討委員会」

- ・宮城県沿岸域(直轄・補助)の復旧基本方針の検討
- ・景観、環境、利用の配慮事項の検討
- ・懇談会からの報告に対する助言

景観・環境・利用
の配慮事項

報告・助言

地区懇談会

三陸南沿岸地区

石巻海岸地区

仙台湾南部海岸地区

- ・各復旧地区の具体的な復旧方法の検討
- ・各地区で発生した問題解決のためのアドバイス(アドバイザー)

各地区の具体的な
対応方針

相談・アドバイス

現場での適用
イメージ

各地区毎の復旧(計画・施工・管理)

※委員会の運営は東北地方整備局
宮城県が連携、協働し進める。

河口部・海岸施設復旧における環境等への取り組み方針

検討の範囲と検討ケースの設定

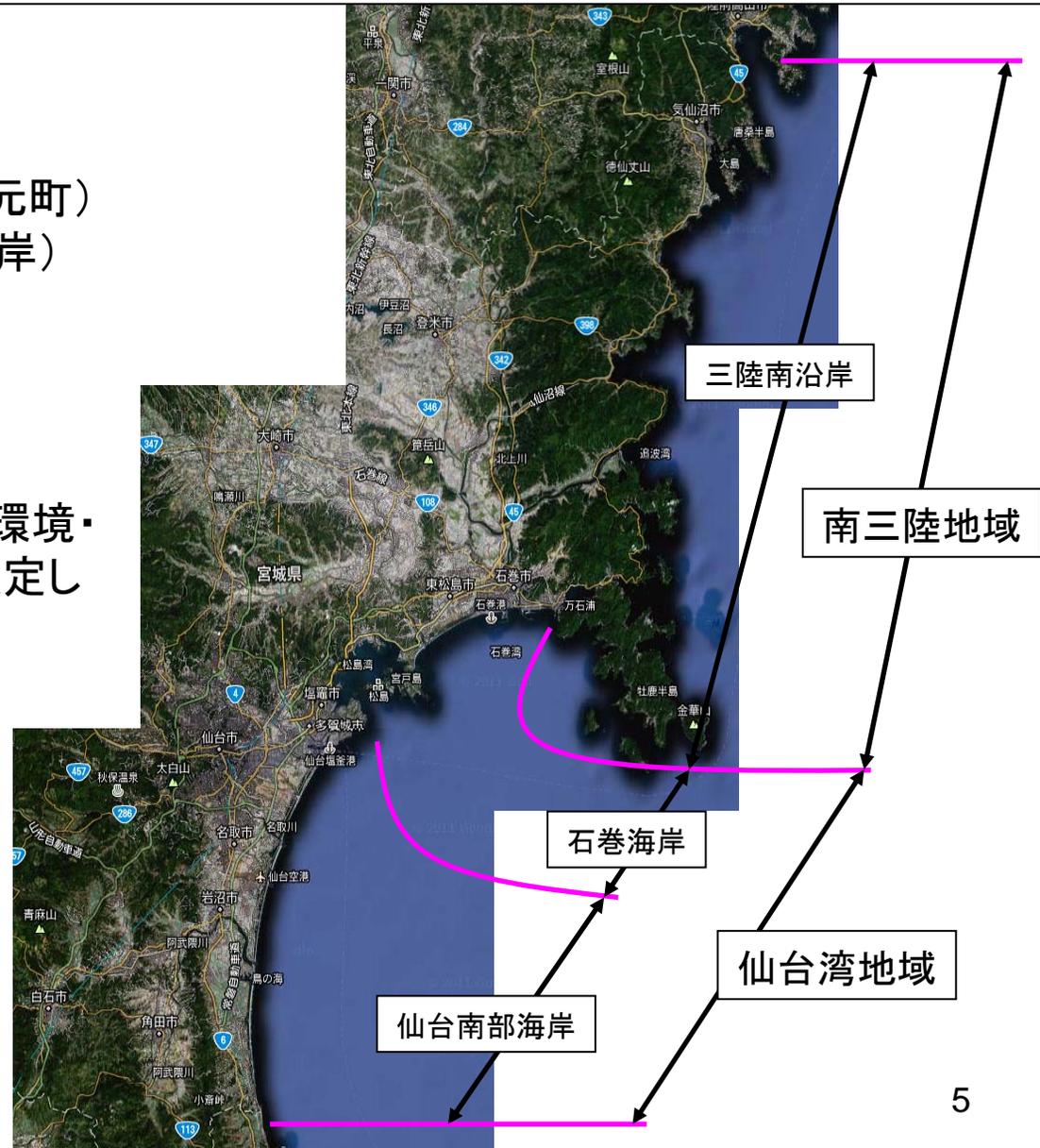
○検討の範囲

- 宮城県沿岸域(気仙沼市～山元町)
- ※復旧延長 約60km(建設海岸)
- 当該区間の河口域
- ※44河川(直轄・補助)

○検討ケースの設定

- 南三陸地域と仙台湾地域から環境・景観・利用の特徴的な地区を選定し検討ケース地区とする。
- ・景観への配慮を主とする地区
- ・環境への配慮を主とする地区
- ・利用への配慮を主とする地区
- ・複合地区

※地形の特性、被災実態、地域復興の特性を勘案し南三陸地域と仙台湾地域を分けてケースを設定



河口部・海岸施設復旧における環境等への取り組み方針

検討のスケジュール

○復旧基本方針の検討
→H23/11～H24/3

○施工のフォローアップ
→H24～H27

○管理・モニタリング
→H24～復旧完了5年程度

年度	災害復旧	検討委員会	地区懇談会
H23	海岸 重要保全対象地区 の堤防復旧	河口 復旧 原形	[検討内容] 各地区の具体的な復旧方針 施工(管理)上の課題解決 3地区で設置 ・三陸南沿岸 ・石巻海岸 ・仙台湾南部
H24	その他の地区 の堤防復旧	海岸堤防と整合 した堤防復旧	
H25			
H26	基本方針の検討		
H27		施工に関するフォローアップ(随時開催) モニタリング結果の評価・改善案の検討(随時開催)	
・	概ね2年		
完成後 約5年		H24出水 期まで	